

1 幼・保小中12年間の連携

子どもが、高浜市のよさを感じながら、心豊かに成長・発達するために12年間の学びと育ちをつなぐ、異校種間の連携教育を推進する。

教職員間の情報交換会や異校種参観により、互いの教育観や指導法への理解を深める。

共通の目標を掲げ、指導がとぎれないようにつなげる教員の意識をさらに高める。

2 確かな学力の向上

① 教師力・授業力の向上

アクティブラーニング、ICTを活用した授業実践、外国語の高浜版CAN-DOリストの活用・改善、ALTや英語専科教員の活用、プログラミング教育ソフトのビスケットやスクラッチ、ロボットを活用した高浜版プログラミング学習を進める。

また、昨年度から小学校に配置した学校司書を中学校にも配置し、図書館を「学びの場」として整備していく。

② きめ細やかな指導の充実

少人数指導やティームティーチングの充実を図るとともに授業方法を検証し、効果的な指導法について追究し、個に応じた学力の向上を図る。そのために必要なサポートティーチャーや外国人指導助手(ALT)の配置を継続して行う。

3 一人ひとりを大切にする教育

① 特別支援教育の充実

保護者と教職員が個別の教育支援計画を共有し、医療や福祉サービスなど関係機関と連携しながら学校と家庭が歩調を合わせて個に応じた支援をする。各校には、特別支援教育コーディネーターの役割を位置づけ、自校の体制について見直し、改善を進めていく。また、幼保小中だけでなく、高浜高等学校と連携し、個別の教育支援計画の引き継ぎと活用を進める。

② いきいき広場福祉部との連携

こども発達センターの専門家と教育委員会の専門家が、小学校区ごとにチームを組み、各園・学校を巡回訪問し、具体的な支援について助言を行う。関係各所が連携し、多様なニーズに応えるように、子どもや家庭を見守り支援する。

③ 相談活動・学習支援の充実

こころの相談員が子どもや保護者、教職員との相談を行うほか、スクールヘルパーを中学校に配置し、学校不適応をおこしている生徒の学習支援や生活支援を行う。また、スクールカウンセラーを定期的に学校に派遣し、児童生徒や保護者の抱える悩みを受け止め、心のケアをする役割を果たしていく。

4 地域と協働する学校

学校を「学びの拠点」とし、地域の活動を行う場、地域の住民が授業や学校行事などをとおして、子どもたちと交流する場となるように努める。

高浜カリキュラムの実践や各種学校行事では、地域の「ひと・もの・こと」を大切に、地域とともに活動し、ともに学ぶ機会を積極的に取り入れる。

また、高浜版プログラミング学習においては、愛知教育大学などと連携し、子どもの学びを支援します。

地域交流施設を併設した高浜小学校においては、「大家族を縦横に繋ぐ架け橋」となるためのモデル校として役割を果たしていく。

5 安全で快適な教育環境

子どもの学びの場・生活の場として、地域コミュニティの拠点として、市民にとっての学び舎となるために、教育環境の整備を計画的に進めていく。また、高浜小学校で進めてきた民間プールを活用した水泳の授業に、新たに高取小学校を加え、その運用や水泳指導カリキュラムなどについて、実践を進めながら改善していく。校舎などの老朽化に伴う改修や修繕については、学校トイレの洋式化に向けた設計業務に着手し、高取小学校に加えて、吉浜小学校の大規模改造工事の設計に着手する。公共施設総合管理計画の関連では、学校施設を効率的・効果的に長寿命化を図るための長寿命化計画を作成し、計画的に安心安全な学校施設の保全に努める。

そして、教育のICT化を推進し、小中学校におけるパソコン端末と通信環境の整備を進める。

そのほか、子どもにとって最大の教育環境である教員の労務管理の徹底や、各校の実態に応じた業務改善に取り組み、教職員が毎日笑顔で子どもの前に立つことができるように努める。